

第3次射水市総合計画の策定に向けて ～これからの協働のまちづくり～

射水市協働のまちづくり推進会議
令和3年11月26日(金)

第2次総合計画の実績

参画、協働の基盤づくりに関する主な取組

- ・参画、協働意識の醸成及び啓発活動の推進
- ・職員の意識変革及び全庁的な組織体制
- ・地域づくりを担う人材の育成
 - まちづくり大学(平成28年度まで)
 - 射水まちづくりプラットフォーム
 - 射水まちづくりセミナー



市民協働、市民活動の促進に関する主な取組

- ・ 地域振興会によるまちづくり活動の促進
地域型市民協働事業
地域提案型市民協働事業
- ・ 市民や市民活動団体による自主的・主体的なまちづくりの促進
公募提案型市民協働事業の推進

市民活動団体間の相互連携の推進
まちづくり関係団体連絡会議の開催

公共的・公益的な活動の支援
NPOポータルサイトの開設、活用促進
NPO活動展の開催



第2次総合計画の課題

市民参画、協働のまちづくりに関する課題

- ・ 担い手の確保、人材の発掘、育成
- ・ 自治会加入率（平成26年 84.3% 令和2年度 79.6%）
- ・ 各主体や幅広い世代のつなぎ役となるコーディネーターの育成
- ・ 各主体が自立、連携するための組織強化
- ・ 地域課題の明確化
- ・ 地域や活動分野を超えたさまざまな主体の交流促進
- ・ 資金調達の多様化

人口減少と少子高齢化の中で今後の方向性

目指すべきシナリオ

人口減少と少子高齢化



まちづくりを自分ごとと捉え、
まちづくりに主体的に関わる人の増加



地域コミュニティの活性化
住みたいまち、地域の魅力度UP！



地域の特色を生かしたまちづくりの実現

今後（10年後）の方向性や課題

市民協働に対する理解と更なる深化

市民協働の意識や必要性、取組を進めることによるメリットなどを市民等へ積極的に発信し、地域課題にかかる解決策を共に考え、実践

担い手の確保・人材育成

活動への参加者数の増加を図り、まちづくりに関わる人材を育成するとともに、参加者から担い手へと育つための仕組みづくり

効果的、効率的な市民協働の実践

支援方策、支援体制の充実や各市民活動団体が連携できるよう、コーディネーターの育成

デジタル技術の活用



05 / DXで目指す5つのシーン

本市が目指す令和7年度（2025年度）の未来に向けて、次の「つながる」をキーワードにした5つのシーンの実現に向けて取り組みます。

5つのシーン

- ① 地域振興会と自治会で「つながる地域生活」
- ② 「家族がつながる」幸せ射水ライフ
- ③ 100歳まで「社会とつながる」安心と健康
- ④ 自動化と思いやりで「つながる地域交通」
- ⑤ 地域を支える「サービスがつながる」効率社会

① 地域振興会と自治会で「つながる地域生活」

一人ひとりの希望が反映できる地域コミュニティとDXによる生活基盤

課題

高齢化に加え、価値観やライフスタイルの多様化により、自治会の運営が難しくなっています。また、コロナ禍にあって、交流の機会が制限されるなど、人間関係の希薄化が進んでいます。

一方で、災害対応能力を維持向上するためには、地域コミュニティが大きな役割を果たすことから、人のつながりが重要となっています。



対応

全ての人が生活の基盤である地域とつながり、必要な情報を受け取ることができる体制の構築を目指します。DXを活用し、日常の連絡から非常時の安否確認など、自治会活動の負担軽減と地域のコミュニティ力の向上を図ります。

また、スマートフォンなどのデジタル機器の操作が難しい方でもできるだけ分かりやすく使える仕組みを整えます。

想定される事業

- 電子自治会アプリの導入
- デジタル機器操作教室の開催

